



NSバトルクライ

#223

11 / 2025 (136)

アルフレッド・コッツ

命令と服従

ヒトラー兵士への言葉
パート9

フォーク・コミュニティ

大都会の郊外にある小さな庭園のコロニーをご存じだろうか。祖国への参加、花々が咲き誇る喜び、この借地で実用的な植物が育つ喜び。少なくともここでは、より深い目的に貫かれた共同体が確認されているはずだ。私たちは、ほんの数年前、このコミュニティがどれほど貧弱だったかを忘れかけている。収穫祭はあったが、それは必ずしも私たちの共同体の顔ではなかった。

そんな祭りの終わりを覚えている。色とりどりの照明が消えた。最後の笑い声が響き渡り、遅れてきたミュージシャンが静かな夜に「Deutschland über alles! - なんという勇気だろう！ドイツはドイツ



Otto Skorzeny

で悪趣味になっていた。怒り狂った男たちは大騒ぎした。彼らは「挑発された」と感じた。ドイツ国歌の数音は、彼らにとって宣戦布告を意味した。国民は不幸に包まれ、ドイツも不幸に包まれた。ドイツは死の時を前にしていた。ドイツ人の心は政党の曲解によってむしばまれていた。人間の顔をした万人の平等が説かれたが、ある者は兄弟の頭蓋骨を砕いた！労働時間中、機械の前に立つ男たちは、ハンマーの揺れや歯車の回転に喜びを感じなかった。彼らは深い憎しみの歌しか歌わなかった。

彼らは自分たちを機械の主人だとは思っていなかった。彼らの中には、自分たちが強靱な鋼鉄を形作ったという自負はなく、むしろ歯車が人間を支配していた。彼らは、ドイツ人に対する憎しみ、人間に奉仕することだけを目的とする機械に対する憎しみ、憎しみへと流れる思考に我を忘れていた。

あれからドイツの生活は大きく変わった！ほんの短い間に！私たちはそのことを決して忘れてはならない！テクノロジーの上にドイツ人は立っている。しかし、ドイツ人は同志となった。彼らは機械を支配する主人となり、光り輝く挟み撃ちに再び喜びを感じている。そして、その命令と機械の服従の結果は、一人のビジネスマンに役立つのではなく、むしろドイツ国民全体に役立つのだ。

数年前までは、機械が、あるいは何かの仕事を遂行することが会社だと信じられていた。機械だけでも、仕事だけでも、やはり会社ではない！会社とは、リーダーシップと追随者の共同体を通して創造されるものだ。それは精神、創造性、素材の調和を表している。賢い配慮と熟練した手が原材料を形成し、セールスマンが市場に送り出す製品を生み出す。しかし、会社には魂があり、単に製品を生産し、それを売って利益を得るよりも高い、生きる目的がある。

ヒットラーの兵士たちよ、君たちは今、モーターの轟音に包まれようと、オフィスの静寂に包まれようと、企業の中に立っている。頭脳と手だけが創造するのではなく、むしろ創造者たちの心も創造し、仕事に対するすべての人々の愛がそこにあり、仕事に対する喜びが容易になるようにするのは、あなた方次第なのだ。退屈な画一化ではなく、すべての人の価値が認められること。それぞれが同じくらい重要だからだ。しかし、誰もそれ以上に重要であるように振る舞ってはならない。そうでなければ、他の者の喜びや信頼を破壊してしまう。総監督は重要だ。そうでなければ、他の者の喜びや信頼を破壊してしまう。

大小さまざまな会社、工場、家庭内の仕事場、それらすべてが創造的なドイツ人の共同体を生み出し、すべての人に必要な生活の統一をもたらす。その団結は、この創造的な人々のものであるドイツへと成長し、そこには奪うだけの人々の居場所はない。それはドイツ民族へと成長する。個人はこのことをただ聞いているだけではいけない。体験し、理解しなければならない。それを最もよく理解するのは、行為を通してである。ヒトラー兵士よ、君がその行為なのだ！民衆の同志のために、この共同体の模範として生きなければならない！偉大な言葉や行動によって任務を遂行できると考えている者は、ヒトラー兵ではない。彼らの口と指を見よ！彼らはヒトラーが築き上げたものを粉碎し、我々が闘い、失ってはならない人々の魂を傷つけるのだ。すべてのドイツ人はわれわれのものだ。それは一人一人の男と女にかかっている。

私たちの誰もが自分だけのものではない。それぞれが他者にも属している。他者が自分に属しているように、それぞれが他者に属しているのだ。抵抗することも、身を引くことも、何の役にも立たない。たとえ道で何千回すれ違ったとしても、あいさつを交わすことなく、私たち全員が一緒に属しているのだ。拒絶しようが肯定しようが、私たちは共同体によって結ばれているのだ。

そう、それは最後の旅でさえも私たちを結びつける。この共同体が死ねば、フォークも死ぬ。私たちはしばしば、気づかぬうちにこの強制力に屈してしまふ。しかし、私たちが常にこの共同体を意識していないのはとても残念なことだ。

考えてみてほしい：もし他の同志がパイプを作らず、他の同志がパイプを敷設し、他の同志がポンプ場を管理し、ただハンドルを回すだけでよかったら、私たちは一杯の水を手に入れることができただろうか？朝食のとき、パンの背後には長い道のりがあることを考えるだろうか？見知らぬ民衆の同志が土を傾けて種を蒔き、小麦を刈って収穫物を家に持ち帰り、小麦粉をパンに焼き上げる。他の人が石を積み重ねて舗装し、他の人が雨水の排水システムを作らなければ、乾いた足で家まで歩くことはできない。私たちの衣服は誰が作ったのか？群衆の中で、あなたは自分の家を建てた人々に出会う。あなたは那些人たちを認めず、挨拶もしない。あなたは自分を高揚させ、視野を広げるのに役立つ本を読んで楽しんでいる。あなたのために長い夜を費やしてその本を書いた人のことを考えるだろうか？印刷や製本をしてくれた職人のことも考えるだろうか？あなたは信頼できる電話を自分で作ることができますか？愛する人の病床で、あなたは誰に電話をかけますか？医者と呼

び、民間の同志を呼び、また別の人を呼ぶ。いつもどこでも、他人があなたのために作ってくれる無言の証人を見つけることができる。あなたの全存在は彼らに依存している。民衆の同志があなたのために創作することをやめれば、あなたは存在しなくならざるを得ないのだ！最も頑固な一匹狼でさえも、この絆から自分を引き離すことはできない。

私たちは少なくとも、この絆を意識し、愛と忠誠を捧げ、それが心のハーモニーとなるよう、ささやかな努力をしたい。そうでなければ、作品や素材は冷たく、喜びのないものになってしまう。だから私たちは、勤勉さと愛情をもって、仕事場や民衆の中に立っている。他人を思いやることは、もはや難しいことではない。他人を傷つけるようなものを自分自身から排除するのは簡単なことだ。

ドイツの民俗共同体は、平等というマルクス主義の夢の達成とは異なるものだ。私たちの共同体は血の絆、民俗的な絆に基づいている。しかし、すべての個人が個人的な友人になることは考えられない。神様に感謝しなければならないが、特質も能力も皆違うのだ。ある人は知的分野でより進んでいるし、別の人には熟練した手を持っている。バイオリン弾きはビールトラックを運転できないし、職人は上院議長になれない。職業に対する要求は、教育に対する要求を増大させる。知的教育にはより大きな手段が必要であり、多くの方は飢えの中でそれをかき集めなければならない。裁判官がタイピストより多くの給料を受け取るのは当然のことである。総局長は、事務官とは違う服装をしなければならない。彼は、彼の知的レベルに見合った文化サークルに参加できなければならない。

フォーマルな場でタキシードを着ても、規則で制服が決められていないのであれば、フォーク共同体に害はない。しかし、私たちがタキシードを着たフォーク同志を非難するならば、それはフォーク共同体を乱すことになる。賃金の高い人を批判し、妬むことは、フォーク共同体を損なうことになる。私たちはもっと相手をよく見て理解する努力をすべきである。勤勉さと野心を教え、彼が有能になり、より多くの収入を得られるようにするのは、私たちの手にかかっている。

地位や階級や知的関心の違いは、民族共同体の妨げにはならない。建設的であり、分かち合わなければならないのは、態度と性格の明確さ、そして他者への理解であり、すべての男女がドイツ統一の一員であることの誇りである。誠実であれば、仕事は高貴なものになる。だから、誰かが「私は "ただの "労働者です！」と言うのは間違っている。自分を卑下することになる。民族共同体には「だけ」はない。正しい考えを持った清掃員が忠実かつ良心

的に仕事をするならば、彼は国家のために崇高な奉仕をすることになる。この男は、悪党のような性格の高官よりも、限りなく高い地位にいる。

しかし、これはタキシードでもレンガ職人のエプロンでもない。それぞれの民族の同志の心は、相手を温かく思うものでなければならない。それ以外のことは、すべて自然に後からついてくる。そうすれば、自分のせいでもないのに飢えたり凍えたりする者はいなくなる。

ヒットラーの男たちよ、私たちは結成から--そして仕事を通じて--フォーク共同体へと成長した。この共同体を形成し、その基礎、すなわち正義を不滅のものとするのは私たち次第だ。我々がそうであるように、他の者もそうであろう。私たち全員が、力を尽くしてドイツに奉仕するという最高の目的を果たさなければならない。それは奉仕だけにかかっている。収入を得ることは、目的を達成するための手段にすぎない。しかし、目的と目標は、民族と祖国への奉仕である。私たちはドイツ民族という共同体をそう認識している。私たちはドイツをそう認識している。トランペッターが演奏したからといって、人々が呪うことが二度とないようにするのは私たち次第だ："ドイツ万歳！"

ベアリング - 義務 - 祖国

ほとんどのドイツ人は軍人養成学校を経ている。外見的な身のこなしについて観察するのは余計なことだ。私たち一人ひとりが、そう、ドイツ人の子どもたちでさえ、兵士がまっすぐに歩くことを知っている。まっすぐな性格の持ち主は、大地にしっかりと足を踏みしめている。私たちにとって、ドイツ人の自信に満ちた姿は自然なものだ。私たちが特に指導者に期待するこの姿勢は、内面的な成熟の表現にほかならない。

この成熟に向けた教育は重要である。しかし、それだけでは決定的ではない。教育が土台となり、そこから一定の形が形成され、信念と行動が一致するような何かがすでに存在していなければならない。その前提条件とは、私たちの中にある道徳律であり、責任感であり、義務の概念である。

もしこれらの価値観が私たちの中に存在しないのであれば、私たちの外面が良いように見えるのは仮装や仮面に過ぎない。見せかけの立派な自制心は、つまらないものとの距離を保っているだけでなく、むしろ大切なものを守るために保っているという点で、空虚さとは区別されなければならない。

義務という概念はしばしば誤用される。私たちはしばしば、義務という概念の背後に自分自身をバリケードで囲い込み、義務を回避するよう自分自身に言い聞かせ、それを率直に認め、自分自身を驚かせる。人生には、時折疲れたり、苛立ったり、失望したり、あるいは憤慨したりすることがある。そのとき、私たちは安っぽい表現を耳にする：「私は自分の義務を果たすだけで、他のことはどうでもいい。自分の義務は果たす！私はそれ以外のことは気にしない。

そう言う人は、義務を忘れるところから始まっている。"他のことはどうでもいい！"屈服？"他のことはどうでもいい！"服務拒否、臆病、脱走？仲間よ、譲歩するな！自分のせいで悪くなったのか？自分の能力の限界に正しく引き戻されたのか？他者」は、もしかしたら自分より優れているのだろうか？あなたはもしかして、自分が壊すものに注意を払うことなく、頑なにレンガの壁を頭から突っ切ろうとしているのか？それとも洞察力が足りず、もぐら塚を山にしてしまったのか？それとも、洞察力が足りず、モグラの山を山に変えてしまったのか？

しかし、あなたが苦い思いをした原因が、本当に相手側にあったと仮定してみよう。上司の機嫌が悪かったのだろうか？当然、私たちは肩をすくめて立ち去る。昇進を逃した？もう何もない？日々の些細なことで疲れてしまった？他人の嫉妬や意地悪に疲れ果ててしまった？自分の方が上だと思っていたのに、自分の方が弱かった。信じていた人に失望させられたことはないだろうか？それは確かに悪いことだ。しかし、個人の失敗の責任は全体にあるのだろうか？代わりに、あなた自身が失望させてはならない、あなたの周りの善良な人々に目を向けてください！他のことは気にしない」のでは、まともで正しい行いをする人々を置き去りにすることになる。私たちはありのままのドイツを愛している。それは、間違いを黙って受け入れるということではありません。私たちは、すべての善良な人々の助けになりたいと願っているが、劣ったものにはどこで出会っても対抗したい。相反するものというのは自然の法則である。光には影があり、肯定的なものには否定的なものがある。偉大なものと哀れなものが隣り合わせにある。例えば、生と死の間の闘いなど、人間の生命表現の最も高いところでさえ、高いものと低いものが肩を並べている。ある者は永遠の前に澄み切った純粋な心で立ち、そのすぐ隣には倒れた者の遺品をつかむ者がいる。私たちはドイツ史の英雄たちに誇りをもって目を向けるが、彼らが反逆と卑しさに取り囲まれていたことを見過ごしてはならない。忠実な心と立派で勤勉な手によって、新生ドイツはこの

短期間にどれほどの壮大さを作り上げたことだろう。しかし、その前にどれほどの情けなさや惨めさを一掃しなければならなかったことだろう！

私たちの視線は、ツバや磨き粉とは何の関係もない、むしろ単純に美しく、気高く、逞しく、健康的なすべてのものの本質を表す偉大なものすべてに向けられる。その隣には実に小さく醜いものが存在する。それは下へ下へと成長し、高みへと忍び寄るが、偉大なるものの影でしか生きられない。この小ささに惑わされてはならない！それは偉大に見せたいのだ。巧妙さ、操縦性、融通性が混ざった無遠慮さは、それ自身を本物の達成や本当の価値として簡単に見せることができる。

あなたには、どちらか一方を肯定するか、もう一方を肯定するかを選択肢がある。ここに中途半端はない。もし、あなたが小市民的、自己中心的、日和見主義者の輪を肯定するならば、あなたはそこにとどまる。しかし、生粋のドイツ人の側を選ぶのであれば、同志よ、決して脱走してはならない。我々は君の苦い思いを理解している。我々は君がつまずくのを見るが、君を転ばせるわけにはいかない。われわれは、諸君を諸君の支えのもとに連れ戻す。

「義務」とは何か？「他者」とは何か？「他者」ではなく、本当に「自分の仕事」だけをしたい人の概念によれば、義務とは、要求された仕事を果たすことなどの強制でしかないだろう。何かを要求されるのであれば、その背景には強制から始まる何かがある。そのような「義務」は、力に屈することに他ならない。もし私たちが規制の脅しによって行動を強制されるのであれば、私たちの行動は外から押し付けられた強制となる。しかし、私たちは義務とはまったく異なるものを理解している。私たちは自分の内側から何かを求めているのであり、道徳的な要求、すなわち愛、信念、人生に対する肯定感、共同体意識によって動かされているのである。これらの力は私たちの中で非常に強くなり、それが私たちにとって強迫観念となることもあるが、それは心からの最上の義務にほかならない。それなら、私たちは自分がしたいと願うことをしなければならない。

つまり、外部に課せられた厳しい強制に、部下が欲望と洞察力と喜びをもって応えられるようにすることである。管理職の指導力によって、強制を苦々しく受け止めるか、自分の仕事が知的才能や手先の巧みさによって生み出されたものだという認識によって励まされるかが決まる。ボランティア精神も同じ強制から生まれる。意欲と従順が一体となって、真の共同体の基礎となるのである。意欲と従順が一緒になれば、真の共同体の基礎となる。全体の背後にはまた強制力があり、それは、存在か非存在かに向けられた、運命に縛られた偉大な、執拗な強制力である。



NSDAP/AOは、世界最大の
□□□□□□□□のプロパガンダの供給者!
多言語の印刷物およびオンライン定期刊行物
□□□に及ぶ多言語の書籍
□□のウェブサイトが多言語で提供

購□申し込みフォーム

() NSバトルクライの定期購読 (今後 12 □□)。30,00ユーロまたはUS\$30.00。【ご希望の言語版をご指定ください!】

() 寄付 - あなたのサポートが私たちの活動を可能にしています。

Name _____

Street _____

都市名 _____ 郵便番号 _____

Country _____

(オプション) 電子メールアドレス / 電話番号 _____

小切手の宛先は以下の通りです。NSDAP/AO

郵送先NSDAP/AO - PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA (または "NSDAP/AO" を省いてください。)